

2019 年度 事業報告
2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

公益社団法人 神奈川県助産師会

はじめに

「助産及び母子保健の普及・啓発」「助産師の資質向上のための教育及び環境整備」を主とし、さらなる適切な事務の運営・財務管理の徹底を目指すとともに、本部との連携活動を図りながら本会の目的達成を目指した。

I 助産及び母子保健の普及・啓発及び調査・研究に関する事業

本会主催の出前講座を主としたセミナー・研修会を開催し、広く多くの人への助産及び母子保健の普及・啓発に努めた。

1 助産及び母子保健の知識の普及・啓発活動

(1) 助産及び母子保健の知識の普及・啓発

・タクシードライバーに助産及び母子に関する知識を普及啓発する

タクシードライバー研修 計 4 回実施 出張講習会、4 回実施、受講人数 193 人

(個人向け講習会を予定していたが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

・女性の健康支援を通し、母子保健の知識の普及・啓発を図る

「女性のための健康講座」を開催 計 2 回実施

① 2019 年 7 月 10 日 「メノポーズを乗り切るコツとは？更年期を幸年期へ」

参加者 25 名 パルシステム神奈川ゆめコープ横浜北エリアの組合員（見学助産師 1 名）

② 7 月 2 日「母の心と体」

参加者 21 名 台東区金竜幼稚園の保護者（男性 1 名）

③ 2020 年 2 月 27 日「更年期を幸年期へ～メノポーズを乗り切るコツとは？～」

そごう横浜店の従業員 10 名ほどを対象に、実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期となった。

④大塚製薬と神奈川県との包括協定で開催されたセミナーに 2 回出席

内容：「明日のキレイを作る！未病女子セミナー」1 回目女性の体形維持・カラダづくり（7/25）、
2 回目女性の冷え対策（10/17）

・卒業間近の助産師学生が助産師の多様な働き方を再認識し、自己の将来について考える機会を作る

2020 年 3 月に予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となった。

・他団体からの要請に応じて会員より研修講師を選定し派遣する

沖縄県及び富山県で開催された学会において、研修の講師として会員を派遣した。

・本会活動や助産及び母子保健、ならびに助産師の教育に関する情報を広報する

ニュースレター（広報誌）を発行（7 月号、12 月号）し、当会の事業紹介や先輩助産師のインタビュー記事、新規広告を掲載した。

本会活動を紹介する最新の情報等をホームページに掲載、更新しホームページの充実を図った。

次年度の助産師マップ作成に向けての話し合いを実施した。

(2) 子育て・女性健康支援事業

・子育て・女性健康支援センター事業（ハローベビーかながわ）の推進

電話相談 月～土曜日（祝日含）10時～16時 相談件数：580件（2020年1月まで）

「ふれあい助産師サロン」：ベビーマッサージ&育児相談、母乳と離乳食・授乳と卒乳について
計12回（月1回）開催した。

参加者：2ヶ月から8ヶ月の児を持つ家族20組 参加者（延べ）62組

（3月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

・助産師が伝える「いのちのはなし」事業の推進

助産師が伝える「いのちのはなし」小学校、中学校、高校計13施設、14講座を実施した。

地域向け家族で聴く「いのちのはなし」を低学年向け2回、高学年向け1回開催した。

（2020年3月15日新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

参加者合計（延べ）親子36組、大人50名、子ども60名が参加

・地域貢献事業の推進

「とわ助産院」を開放し、ニーズに合った教室・講演を開催した。

10月8日をとわの日として、とわ助産院を無償で母子に解放し、母子のための教室（ベビーサイン・産後ボディケアなど）、沐浴クラス（参加者22組）を実施した。

とわ助産院で横浜市産後ケア事業、横浜市訪問型母乳相談事業の受け入れ実施した。

「子育てを語ろう会」（こどもの力を引き出すシンプルな習慣作り）を開催した。

7月26日 参加者：母子3組

（3）行政機関や関係団体・企業との連携強化

・各種団体及び企業と連携し、助産師を派遣する

赤ちゃん本舗へ講師を派遣した。（アリオ橋本店11回/年、湘南テラスモール店3回/年）

（3月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

逗子市両親教室に講師を派遣した。

イオン東戸塚店の助産師相談（担当2名、毎週水・日曜日10時～17時）として派遣した。

（3月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

相談員ミーティング（3回）、イオン東戸塚店と契約更新会議（2020年2月22日）を開催した。

ベビーカレンダーにおけるWeb相談員として助産師を派遣した。

・周産期医療ネットワーク参入への取り組みや要望書の提出等、行政機関との連携を強化

関連団体に要望書を作成し提出した。県議会議員ヒアリングに計4回出席した。

要望を伝え、ご協力したいとの回答を得た。

2019年7月1日 自由民主党神奈川県議会議員団

2019年7月16日 県政会

2019年7月26日 立憲民主党・民権クラブ神奈川県議会

2019年7月29日 公明党神奈川県議会

2 助産師業務の安全管理及び支援業務

1) 助産師業務の安全管理

ヒヤリハット等の事例をはじめとし、安全管理にかかわる情報の分析による最新データから助産師を教育し、助産師1人1人が業務上の事故再発を防止及び災害発生時妊産婦、女性の支援体制の確立ができるよう以下の活動を行う。

・ **異常報告書による事例検討・分析を行い共有し再発防止を図る**

安全対策委員会にて事例検討、分析を実施し、事例分析結果を助産所部会へ紙媒体にて報告した。

神奈川県産婦人科医会医師 3 名（嘱託医、高次医療機関産婦人科医、新生児科医）を招き、アドバイザー会議を開催した。医療安全のためのリスクマネジメント研修会を 1 回開催した。

2019 年 5 月 11 日（土）「最近のトピックス：羊水塞栓症 アナフィラキシーショック」

・ **緊急事態が発症した場合、適切かつ迅速な対応に臨む：重症事例なし、事故調査 0 件**

・ **助産師の損害賠償保険への加入推進：部会集会やメーリング等で加入を促した。**

・ **助産所と嘱託医・嘱託医療機関との連携強化を図るための報告会を開催**

第 11 回助産所と嘱託医・嘱託医療機関の報告会を実施した。

2019 年 6 月 6 日（木） 参加者：医療機関関係者 16 名 助産所関係者 20 名

「報告：2018 年度の助産所の分娩転院搬送」

「講演：新生児聴力検査について」

・ **助産師業務の安全管理を図る**

助産所部会で事例検討を実施、情報の共有により助産業務ガイドラインを遵守するよう周知した。

助産所安全管理評価を実施、日本助産評価機構助産所評価の推進を行った。

・ **保健指導で開業している助産師に対する安全管理基準の周知徹底**

ヒヤリハット事例 4 件、部会委員会で検討し、安全対策委員会と日本助産師会に提出した。

9 月部会集会にて 保健指導開業の安全管理基準の遵守・賠償保険加入の説明を行なった。

部会集会やメーリングリスト等で日本助産師会・神奈川県助産師会の活動、調査の周知、研修会の案内等の情報を伝えた。

2) 支援事業

・ **災害時の妊産婦、女性を支援する**

自然災害時に行政が対策本部実施の際、とわ助産院が「妊産婦・母子対策センターとなり、安全の確保と助産師のボランティア派遣を行う。

該当する災害はなく、実施しなかった。理事、助産所部会、ハローベビー担当者に対して、災害時安否確認訓練実施した。（2019 年 2 月）

災害対策マニュアルの改訂を検討を重ねた。災害時備蓄品の点検・補充を行った。

災害支援体制の強化

本部指示の災害時安否確認訓練実施した。208 名の安否確認を実施。

組織強化委員会主催の 6 月 27 日地区別代表者会議にて、各地区からの災害対策担当者の選出を依頼し、神奈川県全域を統括していく基礎作りとして 10 月 27 日に地区別災害対策担当者会議を開催した。災害時支援協力助産師の登録制度を開始した。

神奈川県と昭和大学、神奈川県助産師会の 3 者合同で神奈川県における災害時の妊産婦・母子支援対策の整備を実施することとなり、準備段階の 3 者会議を 3 回開催した。

神奈川県の災害時小児周産期リエゾン会議に 2 回陪席した。

災害義援金の募金活動を行った。（災害対策募金箱：2,770 円、理事有志から 47,500 円）

災害義援金を送付した。（千葉県助産師会 50,000 円、佐賀県助産師会辞退、いなだ助産院 20,000 円）

・ **災害発生時の支援に関する研修の開催**

2019 年 10 月 28 日 「災害発生時、母子と家族を守る防災支援」 参加者 38 名

・すくすく赤ちゃん献金事業の推進

総会ですくすく赤ちゃん献金贈呈した。認定 NP0 法人スマイルオブキッズ 10 万円

2018 年度献金預かり 計 288,465 円 (神奈川県助産師会 100,997 円 日本助産師会 193,261 円)

3) 調査・研究

以下の収集データにより調査・研究を行い、その結果をホームページ・会報から公表し、広く多くの人に周知させる。

・助産師が行う研究等の倫理審査の実施

研究倫理審査を 4 件実施した。

勤務部会：「アドバンス助産師の働く環境を管理者の視点から探る～神奈川県の勤務助産師の労働管理の実態調査より～」2019 年 2 月実施した。神奈川県内分娩施設 128 件アンケート配送※ 45 件回収 回収率 35% 2020 年 3 月神奈川母性衛生学会で発表予定だったが中止となった。

・子育て・女性健康支援センター事業（ハローベビーかながわ）のデータ

ハローベビーかながわの電話相談件数・内容を集計し、本部に報告、ホームページに掲載した。

・いのちのはなし事業のデータ：ホームページに調査報告を掲載した。

・助産所の分娩・搬送に関するデータ

分析を行い安全な助産所運営に役立てるため、各助産所へフィードバックをした。

・母子保健活動に関するデータ：

母乳育児支援自己評価調査（7 月配布：140 名 8 月回収：94 名 回収率：67.1%）は日本助産師会に提出し、機関誌に報告した。

都道府県助産師会保健指導部会活動調査を実施し、結果を日本助産師会に報告した。

神奈川県助産師会保健指導部会会員活動調査を実施し、ホームページに掲載した。

（7 月配布：140 名 8 月回収：93 名 回収率：66.4%）

・クリニカルラダー取得後の労働環境の状況把握：

勤務部会：助産師クリニカルラダー取得後の労働環境状況についてアンケート調査を実施した※

保健指導部会：会員活動調査を行い、クリニカルラダーの取得・取得予定の状況の把握を行った。

・助産所実習の受け入れ状況と進学・就職状況のデータの収集

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、データ収集の時期が 2020 年 5 月へ延期となった。

II 助産師の資質向上のための教育及び環境整備に関する事業

1 助産師及び助産師養成機関及び看護職の能力向上・スキルアップ

1) 助産師の資質向上のための研修会・講習会

研修会ワーキンググループを組織し、研修会実施に向けて準備を行い、17 の研修を開催した。

2019 年度神奈川県周産期医療従事看護職員資質向上研修事業研修は、9 の研修を開催した。

研修参加者人数 892 名(会員 495 名、一般 396 名)/年。

・助産業務スキルアップを図るための研修会

「女性が起業するための経営手腕」 2019 年 10 月 6 日 参加者 33 名

「助産所を継ぐための一考察～静岡県助産師会の取り組み～」

2019 年 10 月 6 日 参加者 15 名

CTG 判読と対応

2019 年 11 月 2 日 参加者 64 名

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------|
| 分娩介助技術～開業助産師の技～ | 2019 年 11 月 2 日 | 参加者 60 名 |
| ガスケアプローチ | 2020 年 1 月 25 日 | 参加者 55 名 |
- ・母子保健に関する知識の普及や技術向上のための研修
 - 「産前産後のメンタルヘルスケア」
 - ①周産期医療の現場で何をやるべきか 2019 年 7 月 14 日 参加者 83 名
 - ②明日から実践できる支援方法」 2019 年 7 月 14 日 参加者 88 名
 - 「指導者向け性教育」 2019 年 9 月 7 日 参加者 72 名
 - ・電話相談等の相談業務の資質向上のための研修会
 - 「虐待防止と育てにくさへの支援」 2019 年 12 月 14 日 参加者 63 名
 - 「更年期障害の最新治療」 2019 年 12 月 14 日 参加者 63 名
 - ・助産業務に関する安全対策のための研修会
 - リスクマネジメント研修
 - 「アナフェラキシー」 2019 年 5 月 11 日 参加者 68 名
 - 「羊水塞栓」 2019 年 5 月 11 日 参加者 68 名
 - ・災害対策に関する研修会
 - 「災害時の小児周産期リエゾン」 2019 年 4 月 16 日 参加者 19 名
 - 「災害発生時、母子と家族を守る防災支援」 2019 年 10 月 27 日 参加者 37 名
 - ・産科救急対応に関する研修
 - 新生児蘇生法 B コース講習 2019 年 12 月 8 日 参加者 22 名
 - 新生児蘇生法スキルアップ研修 2019 年 6 月 20 日 参加者 23 名
 - 2020 年 2 月 20 日 中止
 - J-CMELS ベーシックコース 2019 年 9 月 28 日 参加者 69 名
 - 2019 年 9 月 29 日 参加者 69 名
 - ・助産院留学の推進・各種講座の広報調整

助産院留学：留学生受け入れ 10 名（延べ日数 34 日）受け入れ助産所 4 か所。留学の手順を見直しホームページの見直しの実施。留学生募集のチラシを配布した。（会員発送、施設発送、各研修会）

各種講座見学：いのちのはなし（学校）3 名（地域向け）0 名、女性講座 1 名
 - ・「いのちのはなし事業」における講師の育成

会議開催にて講義内容の検討、実施心得の作成、地域向け講座の企画をした。

助産師が伝える「いのちのはなし」、地域向け家族で聴く「いのちのはなし」の見学者を受入れた。
- ## 2)円滑な学生実習の受け入れのための支援
- ・助産所実習調整を学校と助産所の連携強化を行い、助産所における実習の受け入れ環境の整備
 - 実習校と助産所との連絡会の開催
 - ①助産院実習調整の確認、入力方法の周知、各学校間での調整期間等の検討

2019 年 6 月 21 日 出席者 教育機関 51 校、助産院 9 施設 計 62 名（2019 年度 56 名）
 - ②助産所実習の日程調整、助産所実習の実習費に関する検討、神奈川県助産師会への入会推進の検討

（2018 年 12 月 12 日 出席者 教育機関 38 校、助産院 10 施設 計 60 名）
 - ・助産所における実習受入環境の整備（神奈川県からの支援あり）

実習を受け入れる助産所の支援：助産所部会にて、神奈川県の補助金制度を紹介した。

・学生実習や助産師の研修受け入れを行い、後輩育成に努める

とわ助産院において看護学生 9 校 111 名、助産師学生 5 校 10 名の受け入れを行った。助産院留学生 3 名の受け入れをした。助産師会のほか他団体への協力として研修会開催場所として提供をした。

2 助産師の労働環境等の改善

以下の活動を行い、労働環境の改善を図ることで助産師・助産所の資質向上のための環境整備に力を入れていく。

- ・病院・診療所における勤務助産師の待遇改善への取り組み
- クリニカルラダーの申請を推進し、状況の把握に努める※

Ⅲ助産所の運営

本会の収益事業とし、とわ助産院の健全な運営を行う。妊婦健診・分娩介助・育児相談等の事業を行うとともに、本会の公益目的事業である「助産及び母子保健の普及・啓発」を目指し、以下の活動を行っていく。

- ① 分娩件数 32 件 妊婦健診 324 件 産後健診 61 件 母乳外来 385 件
- ② 産後ケア事業 110 件（横浜市委託 97 件、自費入院 13 件）述べ日数 278 日
42 件（東京都大田区の産後デイケア委託受け入れを開始した）
- ③ 訪問型母乳相談事業（横浜市委託）25 件
- ④各種研修会・マタニティヨガ・ベビーマッサージ等開催のための研修室貸出し、助産師・学生の技術向上のための実習の場として活用してもらった。
- ⑤保育園への講演、中学生の職業体験受入等、行政・近隣の子育て機関との連携強化に努め、安全管理指針に基づく従業員への安全管理教育・施設の防犯・防災管理を徹底させ、併せて施設の充実を図り、本会運営のとわ助産院を安心して安全な施設とすることに努めた。（中学生の職業体験受け入れ 2 名、入院助産受け入れなし、看護学生 8 校 93 名、助産師学生 5 校 10 名）
- ⑥デジタルサイネージ購入し広報活動につとめた。

とわ助産院運営会議の開催

会議を開催し、分娩数の減少に対する対策の検討とともに、今後の会立助産院としての方向性について話し合い、未来戦略委員会との連携を行った。

Ⅳ会員相互扶助に関する事業

本部・他全国部会との連携の強化を図る。特に以下の活動を行うことで、本会の組織強化と福利厚生の実現を図る。

1) 連携促進による組織強化

本部の総会・研修会・部会集会に参加し、情報交換や連携を行った。

賀詞交歓会 2020 年 1 月 27 日 参加者 67 名 講演：「産後ケアの法制化について」

部会集会やメーリングリストにて、本部・当会の活動状況や研修の案内等の情報共有に努めた。

2) 福利厚生

表彰（すくすく赤ちゃん献金表彰等）と表彰推薦を実施した。叙勲、慶弔（なし）

研修会参加補助のためのチケット発行（2000 円券 2 枚）×会員 603 名

V その他

本会の基本財源である会費収益の安定化を図るため、会員ネットワーク推進等の会員増加対策の実現を目指す。また、各企業・団体への寄付の依頼活動も税制優遇措置を前面に押し出し、リーフレットの配布・ホームページからの呼びかけ等により、収益の安定化に向けた活動を積極的に行う

1) 事業活動や運営の安定と強化

理事会、とわ助産院運営会議、事業運営会議、未来戦略会議を実施し、会の活動・運営に関する必要事項を検討した。

- ・内閣府立ち入り検査 2019 年度は実施なし。

2) 寄付依頼活動・会員ネットワークの推進・強化

- ・会員ネットワークの推進・強化

当会ととわ助産院の Facebook で研修会やイベントを掲載し、適宜更新した。

- ・会員増加対策

入会者紹介及び入会予約キャンペーンの実施：研修会で入会案内のビデオメッセージを流し、入会案内を実施、管理者に向け入会案内を発送した。

入会予約キャンペーンを実施し特典チケットを発行した。

(実施期間 2019 年 4 月～5 月・チケット 1,000 円×2 枚発行) 入会数 8 名

入会者紹介キャンペーンを実施した。

(実施期間 2018 年 4 月～5 月・特典チケット 1,000 円×2 枚発行) 紹介数 3 名 入会者 8 名

- ・賛助会員入会促進活動

賛助会員証の作成(5 月に完成)と発行

賛助会員数：個人 2 名、企業 11 社、学校 7 校 会費：259,000 円

病院・保健センター・企業にチラシを発送した。

- ・会の円滑な運営のために寄付金を集める

寄付：関連企業 147 社に寄付依頼の文書を郵送した。

寄付者：個人 1 名、企業 4 社（合計 145,000 円）、

岡山県助産師会より 30,000 円（令和元年台風 19 号の災害義援金として）

関連団体が主催する集会に参加する企業にリーフレットを配布した。

会のリーフレット改訂版を配布した。

ニュースレター（広報誌）への企業広告（3 社）を募集した。

- ・組織内の連携強化

神奈川県下の各地区の情報交換の場や災害対策の体制づくりに繋げるために、2019 年 6 月 27 日に県内の地区別連携集会を開催した。

3) 財務管理

公益財務三基準を満たし、会の運営が健全に行われるように活動を行う

収支予算案を立案し、毎月の収支を管理、会計監査・決済報告を行った。

寄付金や研修会チケットの集計と報告を行い、会員人数及び動向を把握し、会費を管理した。

以上